

# 令和2年度事業報告書

大正琴による生涯学習活動を通じて、大正琴音楽の次世代への伝承と芸術文化の振興に寄与する目的で次の事業を行った。

## 1. 大正琴音楽文化の振興及び次世代への継承事業

### 1-1 次世代大正琴普及事業

#### (1)小・中・高等学校等における大正琴普及事業(大正琴寄贈・講師派遣)

##### ① 事業内容

子供達に大正琴音楽に接する機会を与えるために、当法人の社員等から使用しなくなった大正琴を譲り受け、メーカーで修理し、再生したものを全国の小中高校等の教育機関に寄贈するとともに、社員を講師として派遣し講習を実施することにより、大正琴音楽の素晴らしさと大正琴の歴史を次世代に伝承した。

合わせて、大正琴が大正元年にタイプライターと二弦琴(八雲琴)の機能を勘案して発明された日本固有の楽器である等の日本の文化を伝える教育も行った。

##### ② 実績

- ・20台の大正琴を6箇所の教育機関へ寄贈した。
- ・ボランティア講習186回含め、延べ246回の講師派遣を19箇所の教育機関で行い、延べ298人が受講した。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、寄贈・講習先教育機関及び受講数が昨年度の半分程度の規模に縮小した。

##### ③ 成果

大正琴を通じて音楽をする喜びを与え、大正琴に親近感を持たせることによって、次世代の愛好家を育てることができた。

#### (2)全国子供大正琴コンクール

##### ① 事業内容

全国子供大正琴コンクールの最終選考会を国民文化祭「大正琴の祭典」の子供の部に位置付けて実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響から第35回国民文化祭・みやぎ2020 第20回全国障害者芸術・文化祭みやぎ大会(以下「第35回国民文化祭」という。))が令和3年度に延期開催になったことを受け、全国子供大正琴コンクールは当法人が単独で主催し、応募DVDにて審査する方法に変更して開催した。

入賞は金賞、銀賞、銅賞とし文部科学大臣賞は最終選考会を行わなかったため授与しなかった。

## ② 実績

- ・応募数:35 グループ(個人)、179 名
- ・日時:令和2年 10 月 14 日(水)
- ・会場:公益社団法人大正琴協会事務所
- ・参加人数:16 グループ(個人)71 名
- ・入賞:金賞 11 グループ(個人)30 名

## ③ 成果

新型コロナウイルス感染症の影響で当コンクールの開催も懸念されたが、応募締切を 2 ヶ月程度延長し、さらに応募DVDによる審査に変更し開催することができた。アンサンブル部門は減少したがソロ部門の参加が増え、今年も演奏レベルが向上した。

## 1-2 大正琴演奏会

### 事業内容

大正琴愛好者が出演する演奏会を開催し、参加者が大正琴を楽しむ姿を確認するとともに、広く一般の来場者を招き、大正琴による生涯学習活動の効果を知らしめ、より多くの方々に大正琴音楽の素晴らしさを周知することを目標に「第 35 回国民文化祭「大正琴の祭典」」の開催を予定していたが新型コロナウイルス感染症の影響で令和 3 年 10 月 10 日(日)に延期した。

## 2. 組織活性化事業(普及功労者表彰事業・機関誌の発行)

### (1)普及功労者表彰事業

#### ① 事業内容

永年にわたり大正琴音楽の次世代への伝承と芸術文化の振興に努めた社員や功労者の栄誉を称え表彰した。

#### ② 実績

20 名を普及功労者として表彰した。

第 8 回通常総会会場にて表彰式を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響でWeb会議にて当総会を開催したことを受け表彰式は開催しなかった。受賞者に表彰状を送付し、協会たよりに氏名等を掲載した。

#### ③ 成果

他の模範として知らしめることで、表彰が次の活動の動機付けに繋がるだけでなく、社員や功労者の社会的信頼を確保することができた。それによって、大正琴文化活動ならびに大正琴協会への参画意識を高めた。

## (2)賛助会員表彰事業

賛助会員表彰該当者は無かった。

## (3)機関誌「協会たより」の発行

### ① 事業内容

当法人の活動の結果と事業計画を周知し、活動を円滑に運営するため、「協会たより」を発行した。

### ② 実績

令和3年3月に4,000部を発行し、社員等に配布した。

### ③ 成果

令和2年度の当法人の事業を詳しく紹介することができ、協会案内、ホームページとの相乗効果により、当法人の活動に対する社会の理解が深まり、各事業が円滑に実施できた。

## 3. 法人維持管理事業

### (1)「協会案内」の発行

#### ① 事業内容

印刷物による情報発信により、大正琴の歴史、当法人の沿革および活動の理解を深め、当法人への支援を促すとともに、大正琴音楽文化の振興と伝承を図った。

#### ② 実績

令和2年7月に4,000部を発行し、社員や賛助会員等に配布した。  
新型コロナウイルス感染症の影響で事業が中止となり配布が縮小した。

#### ③ 成果

当法人の沿革および活動の理解を促すことができただけでなく、これにより各事業において関係者の一層の協力を得られた。

### (2)ホームページの制作

#### ① 事業内容

ホームページを通して、大正琴の歴史、当法人の沿革及び活動に関する情報を提供することにより、当法人に対する理解を深め支援を促すとともに、大正琴音楽文化の振興と伝承を図った。

#### ② 実績

「お知らせ」ブログ記事のほか、令和2年度の活動を踏まえ内容の確認を行い、ホームページを更新した。

#### ③ 成果

ホームページによる不特定多数の閲覧者への情報提供により、当法人に対する理解を深めることができたほか、ブログによるタイムリーな情報提供により、協会事業の紹介ができただけでなく、各事業への動員促進を図ることができた。

近年はホームページの情報発信がマスコミ等の取材につながる事例も見られる。

## 令和 2 年度事業報告附属明細書

令和 2 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので記載事項はない。